

一 次の文章を読んで、あとの問いに答へなさい。

(メロスは単純な男であった。貰い物を背負つたまま、のそその王城に入つていつた。たちまち彼は、巡邏の警衛に捕縛された。調べられて、メロスの懷中からは短剣が出てきたので、騒ぎが大きくなつてしまつた。メロスは王の前に引き出された。
「この短剣で何をするつもりであったか。言え!」暴君ディオニスは静かに、けれども威厳をもつて問い合わせた。
③その王の顔は蒼白で、眉間にしわは刻み込まれたように深かつた。

「町を暴君の手から救つのだ。」とメロスは、
〔B〕 反駆した。「しかたのないやつじや。おまえなどには、わしの孤独の心がわからぬ。」

「おまえがか?」王は、憤慨した。「しかたのないやつじや。おまえなどには、わしの孤独の心がわからぬ。」

「言ひな」メロスは、
〔A〕 答えた。
疑つておられる?」

「疑つておられるが、わしに救はてくれたのは、おまえただ。人の心は、あてにならない。人間は、

もとむと私欲の塊さ。信じては、ならぬ。」暴君は落ち着いてつぶやき、ほつとため息をついた。「わしだって、平和を望んでいるのだが。」

「何のための平和だ。自分の地位を守るためか。」今度はメロスが嘲笑した。

「黙れ!」王は、さつと顔を上げて報いた。「口では、どんな清らかな」とでも言える。わしには、

人のはらわたの奥底を見透いてならぬ。おまえだつて、今にはりつけになつてから、泣いてわびたつて聞かぬぞ。」

「ああ、王はりううだ。うねぼれてはいるがよい。私は、ちゃんと死ぬ覚悟でいるのだ。命こいなど決してしない。

ただ、——」と言いかけて、メロスは足元と視線を落とし、瞬時ためらい、「ただ、私は情けをかけたいつもりなら、処刑までに三日間の日限を与えてください。たつた一人の妹に、亭主をもたせてやりたいのです。三日のうちに、

私は村で結婚式を挙げさせ、必ず、ここへ帰つてきます。」

「ばかな」と暴君は、しゃがれた声で低く笑つた。「どんでもないうそを言つわい。逃がした小鳥が帰つてくると

言つのか。」

「そうです。帰つてくるのです。」メロスは必死で言い張つた。「私は約束を守ります。私が三日間だけ許してくださ。妹が私の帰りを待つてゐるのだ。そんなに私を信じられないならば、よろしく、この町にセリヌンティウス

という石工がいます。私の唯一の友だ。あれを人質としてここに置いて、こう。私が逃げてしまつて、三日目の日暮れまで、ここに帰つてこなかつたら、あの友人を絞め殺してくださ。頼む。そうしてください。」

それを聞いて王は、残虐な気持ちで、そつとほくそ笑んだ。生産気なことを言つわい。どうせ帰つてこないに決まつている。このうそつきにだまされたよりして、放してやるものもしない。そして身代わりの男を、三日目に殺してやるのも気味がいい。人は、これだから信じられぬと、わしは悲しい顔して、その身代わりの男を磔刑に処してやるのだ。世の中の正直者とかいうやつぱらにうんと見せつけてやりたいものさ。

〔A〕腰いを開いた。その身代わりを呼ぶがよい。三日目には日没までに帰つてこい。連れたら、その身代わりをきつと殺すぞ。ちよつと連れてくるがいい。おまえの罪は、永遠に許してやるうぞ。」

「なに、何をおっしゃる?」

「はは。命が大事だったら、連れてこい。おまえの心は、わかつてないのだ。」

メロスは悔しく、じだんだ歎んだ。ものも言いたくなつた。
竹馬の友、セリヌンティウスは、深夜、王城に召された。暴君ディオニスの面前で、よき友とよき友は、一年ぶりで相会つた。メロスは、友に一切の事情を語つた。(セリヌンティウスは無言でうなずき) メロスをひしと抱きしめた。友と友の間は、それによかつた。セリヌンティウスは撃打された。メロスはすぐに出発した。(初夏・満天の星である)

天の星である。

問一 一線部①「メロスは單純な男であった」とはどういう点ですか。次から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア すぐに懇意にする点 イ 思つた通りに行動する点
ウ 他人を信じやすい点 エ 他人の影響を受けやすい点

記号で答えなさい。

問二 一線部②「王城に入つていつた」は何のためですか。文章中の言葉を便つて、一五字以内(句読点含む)で答えなさい。

問三 一線部③「その王の顔は蒼白で、眉間にしわは刻み込まれたように深かつた。」とあります。王のどのよう

な気持ちを読みとることができますか。次から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 今までしてきたことを後悔して、深く反省している気持ち。
イ 誰かに裏切られないかと、いうことだけを警戒している気持ち。
ウ 自分は、一人ぼっちだと思つて、心を痛めているという気持ち。

エ 自分の本心をかくして、頑固になつてゐるという気持ち。

問四 A・B にあてはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア ためらうよつた イ いきり立つて ウ 悪びれず。エ おびえるよつた
問五 一線部A「平和だ」・B「涙かな」は形容動詞です。それぞれの活用形を漢字で答えなさい。

問六 一線部④「人のはらわたの奥底」とはどのよちなものですか。文章中から四字で抜き出して答えなさい。

問七 一線部⑤「願いを聞いた」とあります。王はなぜそらしましたか。次から最も適当なものを選び、記号で

答えなさい。

ア 人を常に疑つてかかることが正しいことだと、うつと民に知らしめるため。

ウ これから一切、人を信じないようにして、うつと決意を固めるため。

エ 人は信用できないことなどが正しいこととを証明できるため。

問八 一線部⑥「おまえの心は、わかつていいぞ」とあります。王はメロスがどうすると思つていますか。二〇字以内(句読点含む)で答えなさい。

問九 一線部⑦「セリヌンティウスは無言でうなずき」メロスをひしと抱きしめた」とあります。セリヌンティウスはどのよちな気持ちで「抱きしめた」のですか。次から最も適当なものを選び、記号で

答えなさい。

ア 信頼する気持ち イ 不安な気持ち ウ 同情する気持ち エ 孤独な気持ち

問十 一線部⑧「初夏、満天の星である」とあります。メロスのどのような気持ちを読みとることができますか。

〔A〕約束といふ言葉を入れて、一五字以内(句読点含む)で答えなさい。

〔B〕約束といふ言葉を入れて、一五字以内(句読点含む)で答えなさい。

九	約	ウ	イ	一	一
來	ア	さ	二	二	二
を	欲	と	町	イ	三
守	の	涙	を	ウ	三
つ	塊	れ	暴	イ	四
て	工	よ	君	二	四
み		う	の	ハ	四
せ		と	手	終	五
る		す	か	止	五
と		る	ら	連	六
い		こ	故	体	六
う		こ	う	形	七
決		こ	た	形	七
意		こ	め		

問五 10点×2
他各8点

二 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

ああ、あ、濁流を泳ぎきり、山賊を三人も打ち倒し韋駄天、ここまで突破してきたメロスよ。眞の勇者、メロスよ。今、ここで、疲れきつて動けなくなるとは惜げない。愛する友は、おまえを信じたばかりにやがて殺されなければならぬ。おまえは、希代の不信の人間、まさしく王の思うつぱだぞ、と自分をしかつてみるのだが、全身なえて、もはや莘虫ほどにも前進かなわぬ。路傍の草原にごろりと寝転がつた。身体疲労すれば、精神もともにやられる。もう、どうでもいいという、勇者に不似合ひな^①ふとくされた根性が、心の隅に奥くつた。わたしは、これほど努力したのだ。約束を破る心は、みじんもなかつた。神も照覧、わたしは不幸な男だ。わたしは、きっと笑われる。わたしの一家も笑われる。わたしは友を欺いた。中途で倒れることはなかつた。今だつて、きみはわたしを無心に待つているだろう。ああ、待つていてるだろう。ありがとう、セリヌンティウス。よくもわたしを信じてくれた。それを思えば、たまらない。友と友の間の信実は、この世でいちばん誇るべき宝なのだからな。セリヌンティウス、わたしは走つたのだ。きみを欺くつもりは、みじんもなかつた。信じてくれ!

ついで、急ぎに急いでここまで来たのだ。濁流を突破した。山賊の囲みからも、するりと抜けて一気に跡を駆け降りてきたのだ。^②わたしだから、できたのだよ。ああ、このうえ、わたしに望みたもうな。ほうつておいてくれ。どうでも、いいのだ。わたしは負けたのだ。だらしがない。笑つてくれ。王はわたしに、ちよつと連れっこい、と耳打ちした。連れたら、身代わりを殺して、わたしを助けてくれると約束した。^③わたしは王の卑劣を憎んだ。けれども、今になつてみると、わたしは王の言うままになつてゐる。わたしは、まだつた運命には、初めから何もしないのと同じことだ。ああ、もう、どうでもいい。これが、わたしの定まつた運命のかもしない。セリヌンティウスよ、許してくれ。きみは、いつでもわたしを信じた。わたしもきみを、欺かなかつた。わたしたちは、本当にいい友と友であつたのだ。一度だつて、暗い疑惑の雲を、お互い胸に宿したことなかつた。今だつて、きみはわたしを無心に待つているだろう。ああ、待つていてるだろう。宿したことなかつた。今だつて、きみはわたしを無心に待つているだろう。ああ、待つていてるだろう。ありがとう、セリヌンティウス。よくもわたしを信じてくれた。それを思えば、たまらない。友と友の間の信実は、この世でいちばん誇るべき宝なのだからな。セリヌンティウス、わたしは走つたのだ。きみを欺く

ものは、みじんもなかつた。信じてくれ！

わたしは急ぎに急いでここまで来たのだ。濁流を突破した。山賊の囲みからも、するりと抜けて一気に跡を駆け降りてきたのだ。わたしは負けたのだ。だらしがない。笑つてくれ。王はわたしに、ちよつと連れっこい、と耳打ちした。連れたら、身代わりを殺して、わたしを助けてくれると約束した。^③わたしは王の卑劣を憎んだ。けれども、今になつてみると、わたしは王の言うままになつてゐる。わたしは、まだつた運命には、初めから何もしないのと同じことだ。ああ、もう、どうでもいい。これが、わたしの定まつた運命のかもしない。セリヌンティウスよ、許してくれ。きみは、いつでもわたしを信じた。わたしもきみを、欺かなかつた。わたしたちは、本当にいい友と友であつたのだ。一度だつて、暗い疑惑の雲を、お互い胸に宿したことなかつた。今だつて、きみはわたしを無心に待つているだろう。ああ、待つていてるだろう。宿したことなかつた。今だつて、きみはわたしを無心に待つているだろう。ああ、待つていてるだろう。ありがとう、セリヌンティウス。よくもわたしを信じてくれた。それを思えば、たまらない。友と友の間の信実は、この世でいちばん誇るべき宝なのだからな。セリヌンティウス、わたしは走つたのだ。きみを欺く

三 傍線部②「わたしだから、できたのだよ」にはメロスのどのような心情が表れているか。最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 義務遂行できた自分の力を自慢する気持ち。
B 自分と比較して、友の無力を非難する気持ち。

C 困難を乗り越えてきたことを、懐かしく思い出している気持ち。
D メロスの弱い心を刺激し、その中に悪徳の心をほびこらせたこと。

四

五

エ 友の信頼にこたえられない自分の立場を弁解する気持ち。

ウ メロスとの間で、実行するつもりもない約束を交わしたこと。

六

エ メロスをそそのかし、彼の正義感を試すような振る舞いをしたこと。

七

エ メロスをそそのかし、「それ」が指す内容を文中の言葉を使って三十五字以内（句読点含む）で答えなさい。

八

エ メロスをそそのかし、「斜陽は赤い光を、木々の葉に投じ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている」について、メロスのどのような心情が表れているか。簡潔に答えなさい。

九

エ メロスをそそのかし、「わたしの命などは、問題ではない」と考えたのはなぜか、三十字以内（句読点含む）で答えなさい。

十

エ メロスをそそのかし、「走れ！」について、メロスはどのような心情か、文中的言葉を使って四十字以内（句読点含む）で答えなさい。

問一 波線部 a 「精も根も尽きた」・ b 「無心に」・ c 「独り合点」の語句の意味を簡潔に答えなさい。

問二 傍線部① 「ふてくされた根性」について、メロスがあてくされた気持ちで自問自答している部分を文 中より抜き出し、その初めと終わりの七字（句読点含む）を答えなさい。